

武江年表 1 宝暦五年（一七五五年）三月十六日

2 文化八年（一八一一年）三月十六日

3 安政六年（一八五九年）十月十日

齋藤月岑編著。嘉永二、三年（1849、1850年）、須原屋
伊八刊。

1 宝暦五年（一七五五年）の項に

○三月十六日より深川永代寺にて、信州戸隠明神九頭龍権現とかくし くずりう
開帳頭光この時神楽を舞ふ神子美女の聞えあり其名をおゑんと
寺いふ踊子の事をおゑんといふ諺はこれより始められり

註 国会図書館デジタルコレクション「武江年表」8巻
[5] (DOI 10.11501/2605167) 13 コマ目。

2 文化八年（一八一一年）の項に

○三月十六日方永代寺にて信州戸隠明神九頭龍権現開帳くずりう 別当
頭光寺

註 国会図書館デジタルコレクション「武江年表」八巻
[7] (DOI 10.11501/2605169) 25 コマ目。

3 安政六年（一八五九年）十月の項に

○同十日、湯島天満宮祭禮、産子町々より車楽伎踊練物等多く出せり、十月は地主神戸隠明神の祭なるべけれど、自ら天満宮の祭と心得たるなり、九日宿宮の日大雨降りければ、十日を宵とし曇天に渡し、又十日に大雨降しかど、雨中に渡りせり。子供の衣装伊達を争ひしも、泥土に汚れたり。されど傘をも用ひざりしは、江戸の風俗なるべし、車楽十三輛踊台五荷地走りをどりも出たり、○今年は、(略)

註 国会図書館デジタルコレクション 「武江年表…全

十二冊」(DOI 10.11501/952986) 166 コマ目。